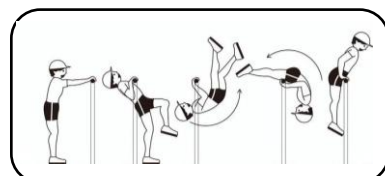


7月3日（水）、6年2組で国語科の努力点公開授業が行われました。単元は、「展開を工夫して物語を書こう」です。表現の工夫によって、作品にどんな効果が表れているかを考え、工夫して表現できることが目標です。

初めに、できなかった逆上がりができるようになるという物語（モデル文）の一部を提示しました。モデル文では、主人公が逆上がりをしようと鉄棒を強く握ったとき、「無になった」と表現しています。そこで、教師が、『無になった』とは、どういうことですか」と投げ掛けました。すると、児童は、「集中している」と答えました。

次に、主人公が足を蹴り上げるところから、回り終えるところまでのイラストを提示しました。教師が、「主人公が足を蹴り上げた後の様子表現しましょう」と全体に投げ掛けました。ある児童が、「空が見えた」と答えましたが、その後は、みんな考え込む様子でした。教師が、「体がふわっとした感じから、『まるで、〇〇のようだ』のように表せないかな」とヒントを与えました。すると、児童から、「こうもり」「鳥」「風船」といった言葉が出されました。中には、「ジェットコースター」と表現する児童もいました。



【イラストを見る児童の様子】

今度は、グループで、主人公の足が上がって、回っている最中の様子の表現を考えました。その際、「見えたもの（情景）」「感じたこと」「聞こえたこと」「例え（〇〇みたいに）」を、付箋に書いて、グループで出し合うようにしました。

児童は、「空が足元に見えた」や「風が気持ちいい」など、景色が逆さまに見える様子や感じたことを様々に表現しました。グループで一人、友達が付箋に書いた内容をタブレットの協働学習ソフトに打ち込み、学級全体で共有できるようにしました。



【グループで付箋に書く様子】

いよいよ、文章にします。児童は共有された付箋の内容を参考に、逆上がりの瞬間を書きました。その後、書いたものをグループで読み合いました。全員が同じ場面について書いているにもかかわらず、人によって表現の仕方が異なることに面白さを感じながら、それぞれの表現のよさを味わうことができました。最後にモデル文を確認すると、「みんなが考えた文の方がいい」という声が上がりました。



【文章を読み合う児童】

児童はこれまでに多くの語彙や表現方法と出合ってきました。それでも、友達と協働的に考えることで、一人で考えるよりも多くの語彙や表現方法を見付けることができます。ここに協働的な学習のよさがあります。今後も、全体での指導や個別の活動、協働的な活動を授業の中に効果的に取り入れ、児童にとって実のある学びを考えていきたいです。